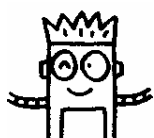


せつしょう かんぱく だじょうだいじん 摂政・関白・太政大臣って、どんな仕事をするの



摂政・関白は天皇てんのうに代わって政治を行い、太政大臣は、太政官だじょうかんという役所の長官をつとめていたんだよ。

摂政は、天皇あきなが幼いじよていときや女帝にょていのときに、政治を行う

摂政は、天皇が幼いとき、または女帝（女性の天皇）のときにおかれた役職で、天皇に代わって政治を行いました。推古天皇すいこのときの聖徳太子しょうとくたいしが、これにあたります。皇族こうぞく以外では、858年に藤原良房ふじわらのよしふさが、清和天皇せいわが幼かったために任命されたのが、最初です。今でも、天皇が18歳未満さいのときや、病気・障害しょうがいがあるとき、重大な事故があるときは、皇室会議が摂政を定めることになっています。

関白は、天皇の成人後せいじんごに、政治を行う

関白は、もともとは「関あずかり白もうす」の意味で、天皇に差し出される文書を、天皇より先に見てから、天皇に差し出すことです。884年に、光孝天皇こうこうが天皇になったとき、その役目に任命された藤原基経ふじわらのもとつねが、最初の関白にあたります。やがて、天皇が幼いときは摂政、成長後は関白をおいて、政治を行わせることが、ならわしになり、藤原道長ふじわらのみちながの子孫が、摂政と関白の役職を、ひとりじめにしました。

太政大臣は、最高官庁たいていこうの太政官たいほうりつりょうの長官かんちょう

太政大臣は、701年の大宝律令たいほうりつりょうによって、官庁かんちょうの中でいちばん上におかれた、太政官の長官です。しかし、いつもおかれていた役職ではなく、ふだんの長官は左大臣さだいじんでした。平安時代には、藤原氏が太政大臣になることが多かったのですが、太政大臣になっても、摂政・関白にならないうちは、政治の実権じっけんをにぎれなかったようです。そのため、太政大臣は、貴族きぞくの家柄いえがらの格を表すという、ただの肩書きかたがになってしまいました。